



魔王が勇者の母親を
寝取ってボデ腹にしたあげく
その子宮から産まれなおす話



聖歴三九二年
魔王ディザイアスによって
世界は混沌の一途を
辿っていた

その混乱の最中
世界を救うために
立ち上がった
一人の勇者がいた

その名を
エリオン――

彼は旅の途中で
出会った仲間達と共に
数々の困難をくぐり抜け

激闘の末に
魔王をあと一步の
ところまで追い詰めた



魔王城

ゴロ
ゴロ...

覚えていろ…
勇者エリオン…
何度滅ぼされようと
余は必ず蘇る…!!

より力を蓄えた
強大な魔王と
なってるな…!!

ほざくな!

小童…があ…ッ!

何度だって
滅ぼしてやる!

その時は
僕が――



忘れぬぞ…
勇者エリオン…

必ず…
必ずや…

貴様に死よりも
残酷な絶望を
味あわせてくれる…!!



お…
終わったの…?

みたい
ですな…

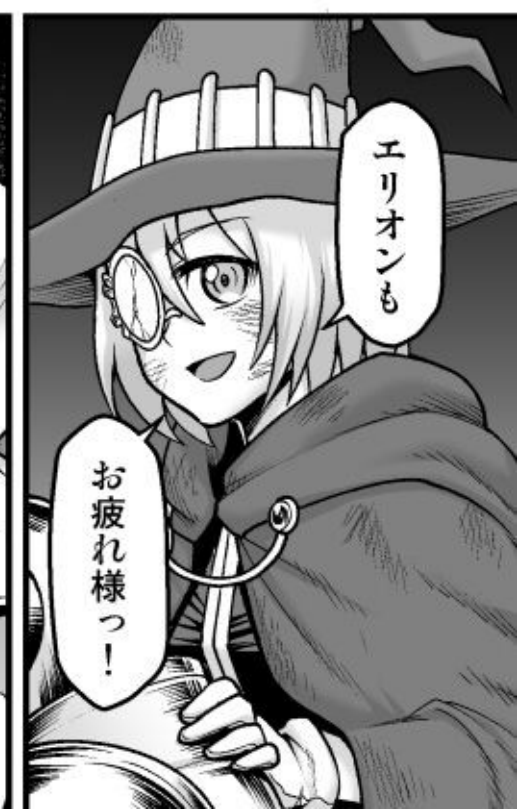
ようやく
大団円って
やつか…

みんな
よく頑張った
わね…



やっと…
やり遂げたよ…

父さん
母さん…



エリオンも

お疲れ様っ!





ここが勇者の
生まれ故郷か……

先の戦いで
魔力をほぼ失ったが……
あの女を殺すくらいは
簡単にできよう……

絶望に歪む
勇者の顔が
楽しみよ……

どうせなら
別の姿で
殺してやろう

余をここまで
苦しめた
褒美よ……



我ながら
完璧だな

ふむ

こっちから
物音がしたけど……

誰か
いるのかし——

せめてもの
手向けだ……

最後は愛する
息子の手で
逝くがよい……

トコッ

ら？





ねえ
エリオン

冒険の話を
聞かせてくれる？

上手くいったようだ
すっかり余を
息子だと思い込んでいる

そりやもう
大変な道のりでさ…

魔王を倒すのに
三日三晩も
かかって…

油断した隙に
ひと思いに
殺してくれるわ

ふーん…
そう…

でも
こうやって
無事に帰ってきて
くれたんだもの

さすが
やっぱりあんたは
父さんと母さんの
息子だわ♡

これも
大聖神様の
お導きね…！

死んだ父さんも
草場の陰から
きつと見守って
くれているわ…

旦那はいないのか
それは都合よ…

あつ
そうだ

お茶
淹れるねっ

あの
ペンダントは…

神の血筋にのみ
伝わる
大聖堂の神珠

聞いた事があるぞ…

かつて神の血を引く女が
旅の剣聖と結び子を成したと
いうが…その女の名を
確か「アルネラ」と言ったか…

なるほど
勇者の強さの秘密は
そこにあつたのか…
道理で勝てぬわけよ

母が神の血を引く
大聖女だというのならば
これを利用しない手は
あるまい

それにこの女
見ればなかなか
良い肉付きをしている

ただ殺してしまう
だけでは
勿体無からう…

何か
手伝おうか
母さん

あ
い
つ
て
の
よ
座

奴は余を息子だと
信じ切っているようだし

長旅で
疲れてる
でしょ？

うん…
まあね

母さんに
出来る事があれば
遠慮なく言つて
いいからね

本当？
…じゃあさ…

溜まった疲れを
癒して欲しいな…

母さんに♡

いいだろ
母さん…♡

久しぶりに
甘えさせてよ

エリオン…

え？

ど…
ど…
意味…？

ドキ
ドキ

癒してって…
そ…そういうことね
勇者って言ったって
まだまだ中身は
子供なんですもの

ずっと親と
離ればなれで
寂しかったらうし
久々に甘えたくも
なるわよね…





親子の
スキンシップって
やつだよ...

久しぶりに会えた
母さんを肌で
感じたいんだよ...

そ...
そんなこと
言って...

いたずらも
いい加減に...

ふあっ...!

気持ち良さそう
だね...母さん

ここが
いいのかな?

んうう...っ

ベ
ク
ッ
♡



ふむ…

「聖なる加護」か…

ブス

ブス

あの
ペンダントは
厄介だな…

ブス

人間相手ならば
弾かれる程度
なのだろう…

だが我々
魔族には
とんでもない
威力だ

魔法による
干渉は無理だな

ぐじゅ
ずじゅ

アレがある限り
簡単には手が出せぬ

持ち主の意志や
感情に影響を受けて
発動する…

…なに
触れられぬなら
発動させなければ
よいだけのこと…

待つておれアルネラ…
元大聖女の身体に…
その神秘の身体に…

必ずや
魔王である余を
孕ませてくれよう



久々に会って
少し戸惑いも
あったのかも…

昨日はちょっと
気まずかったなあ



おはよう
母さん

でも
今日からは
いつも通りよ！

頑張れ私！



ん？

おはよう
エリオ—



平常心
。

あつ





ようよう



絶景
絶景♡





でも…よく考えたら
あの人だっていつも私に
エッチなイタズラ
してきたし…

もしかして
そういう血…？
なのかも？

それに…帰ってきたあの子
…どこかあの人に似てて…

ゴクリ…
なんだかすごく…

大人びて
見えて…

とても
愛おしくて…

こんなにも
ここが疼いて…

あつ♡

クチュ…♡



身体が勝手に疼いて
オナニーがやめられない
なんて…

なんてエッチなの…
私…

こんなところ…
エリオンに見られたら
大変な事になるのに…♡



ガチャッ



なになっ…
何の用かしら!?

母さんの身体には
触らせてないわよ!?

あ…ごめん
気を悪くしたなら
謝るよ

僕なりに
母さんのとの
コミュニケーション
を取ろうと思って…

コミュニ
ケーション?



あつ
母さ…



旅の途中で
立ち寄った
『ドンラブーソ』って
町では

人と人…主に
男女の親密な
交流が盛んでね

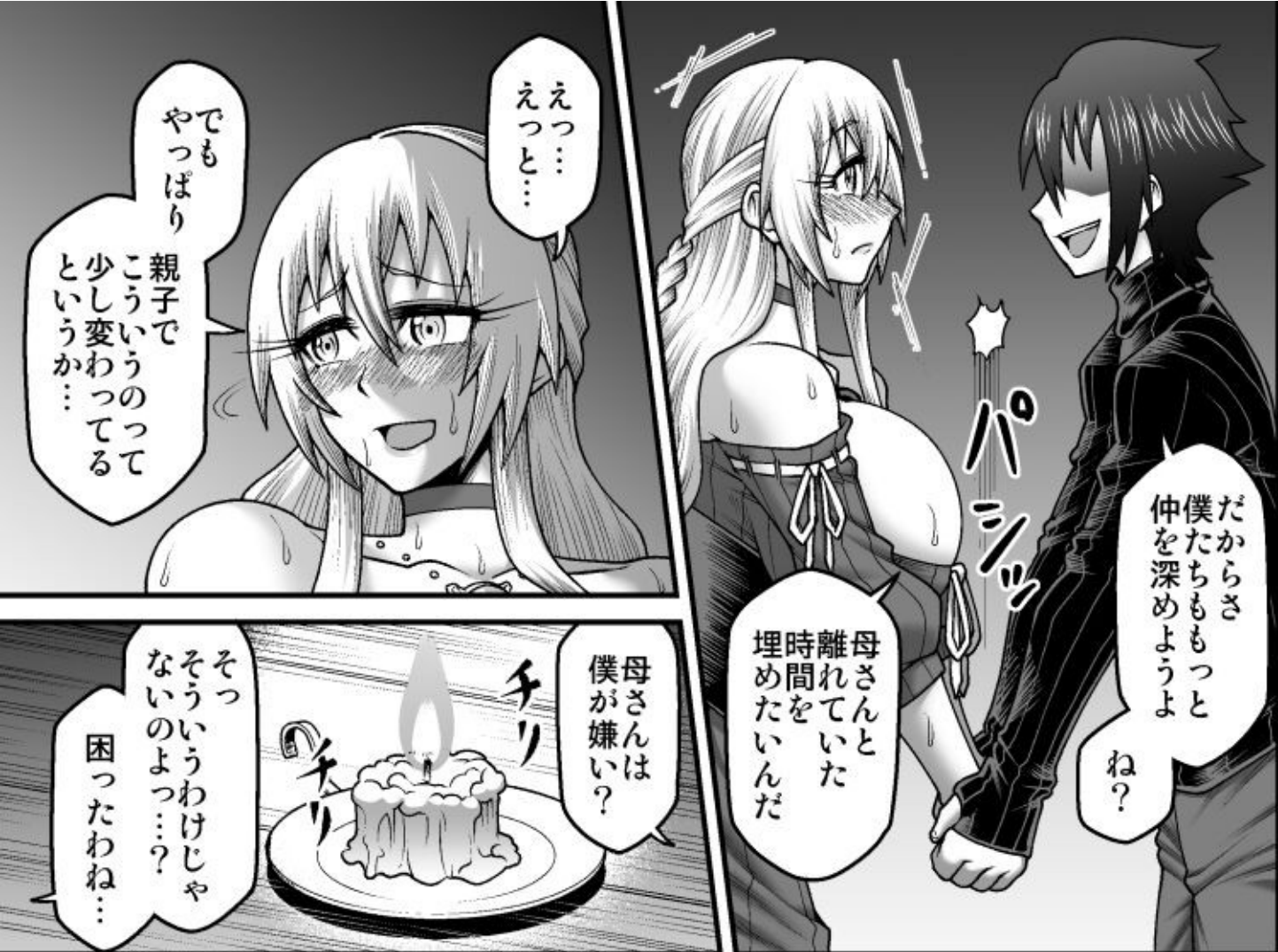


そこでは
ちよつとエッチな
ボディタツチが
男女の仲をより
深めるって聞いたんだ



それは例え
親子や友人間でも
例外なく—





だからさ
僕たちもつと
仲を深めようよ

ね？

パシッ

母さんと
離れていた
時間を
埋めたいんだ

母さんは
僕が嫌い？

チリ



そっ
そういうわけじゃ
ないのよっ...？

困ったわね...

でも
やっぱり

親子で
こういうのって
少し変わってる
というか...

えっ...
えっと...

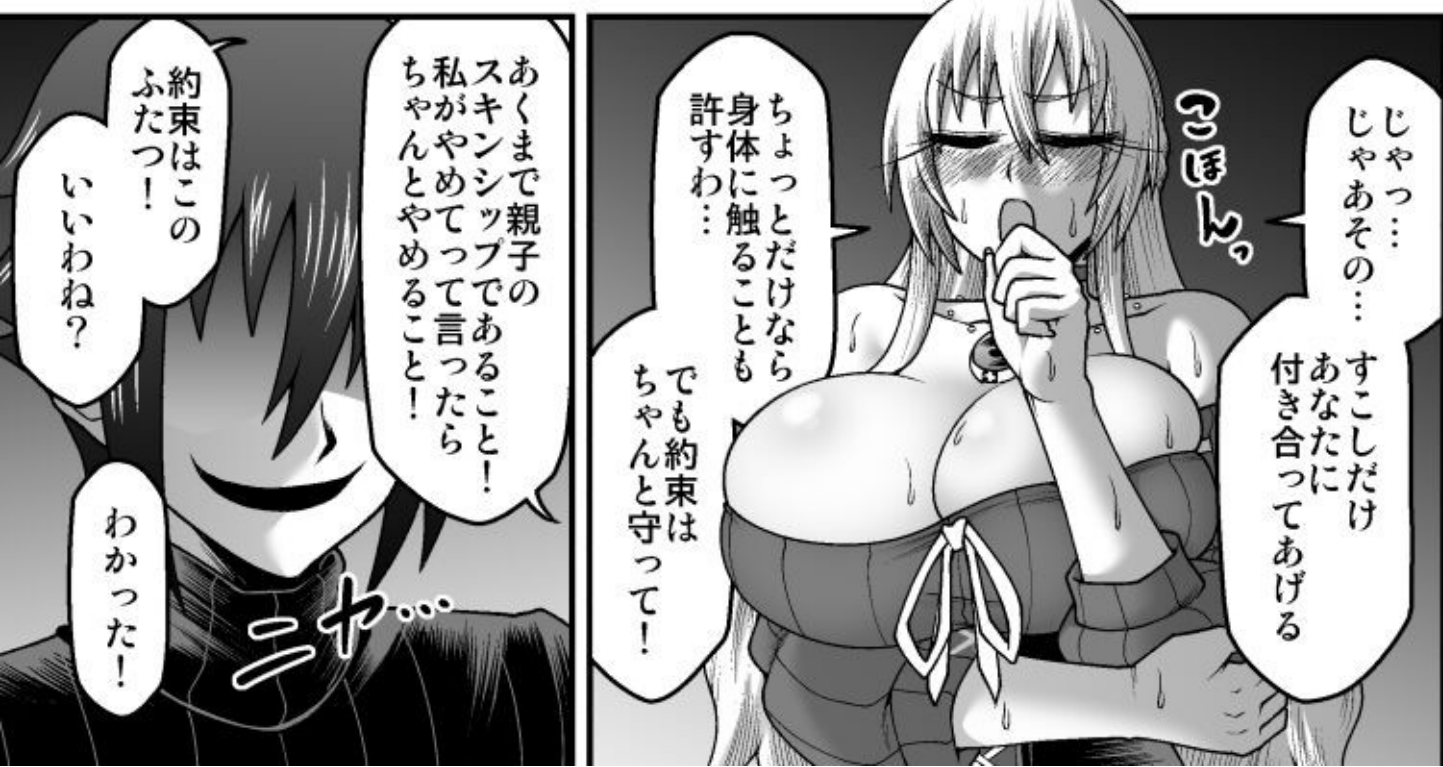


こんなに
甘えてくるなんて
正直ちよつと
おかしいわ...

でも
長い旅の途中で
つらい苦しみ
を味わったから
かも知れないし...

本当に街で
見聞きたことを
試してみたいだけ
なのかも...

どっちにしても
息子の心のケアを
してあげるのも
母である私の
役目よね...？



じゃあ...
じゃあその...

すこしだけ
あなたに
付き合っ
てあげる

ごぼん

ちよつとだけなら
身体に
触ることも
許すわ...

でも約束は
ちゃんと守って！

あくまで親子の
スキンシップであること！
私がやめて
言ったら
ちゃんとやめること！

約束はこの
ふたつ！

いいわね？

わかった！

ニヤ...



じゃあまず

親子のハグから
しようよ



そりや
するわよ…

いいから
やるなら早く
やりなさい



母さん
顔真つ赤だよ

緊張してる？



な…なあんた…
少し警戒しちゃったけど

このくらい親子なら
普通のことじゃない



そういえば
この子が小さい頃は
いっぱい抱っこして
あげたっけ…

なんだか
懐かしいなあ…



こっ…
こんな感じ…？

うん
気持ち
安らぐよ…

ス...

確かに
こうしていると
愛情が増すわ！

エリオンが
言ってたのも
あながち
間違いじゃ...

え...？

んうっ...!?

ちよ...
ちよつと!?

あ...ごめん
手が
すべっちゃった

ぎゅちっ♡♡

ちよつ...
そんな...
力強く...っ！

んっ…だめよ…
この子のペースに
乗せられたら…

でも
力強くて…
なんだか変…っ

ううん…
いつものイタズラで
触ってるだけだもの…!!

大きな
お尻…

触り心地
最高だよ…

だから絶対
感じたりしちゃ
ダメ…!!

母親失格よ…っ

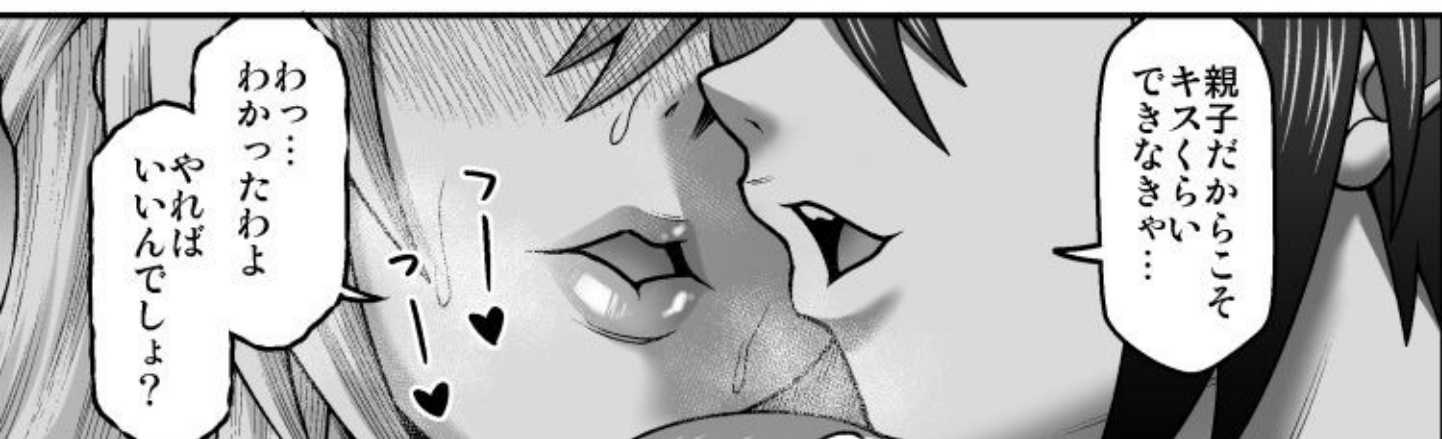
ばかっ…

やはり
思った通り
ペンダントは…

アルネラの感情に
反応するようだな

最初は拒絶する
気持ちが強かったが…

徐々に息子に
心を開くようになって
反応が鈍くなった





ダメよ
エリオン

親子で
こんなこと
本当にダメなの…

でも母さん



だめっ…!!



すごく
気持ち良さそうな
顔してたよ?

僕の名前
呼びながら

こんなに
濡らしてさ…

どろろ



正直に
なりなよ…
母さん

今まで父さんも
僕もいなくて
寂しかったんでしょ?



今の僕なら
母さんを慰めて
あげられると
思うんだ…!!

ああ…あなた…
私は…っ



えっ…!?

やっぱり
気づかれてた…!?

ヌル…



自分に
正直に
なろうよ...

そういうの
いいからさっ

こういうの
気持ちいい
でしょ?

いい
エリオン?

これはあくまで
親子の触れ合い
であって...

そこに
それ以外の
感情は...



やだ...

なんて
はしたないっ...



私...息子に
思いきりおっぱい
揉みしだかれて...

感じてる...♡



ああ…いいよ
母さん…っ

すごく
いい気持ちだ…

そ…そう…
それなら
よかったわ…

擦れば擦るほど
硬さを増し
小刻みに震える息子

嫌悪感とも
罪悪感とも違う

不思議な事に今は
自分の手で息子が
悦んでいることを…

嬉しいと
思っている
私…

そう…そうよ…
母親なんですもの

息子が喜ぶのを見て
嬉しくないことなんて
ないわ…



僕のコレ…
まだ治まって
ないんだよ…？

えっ…

ええっ…!?

嘘っ…
さっきあんなに
出したのに…!?

魔族の性欲が
あの程度で
収まるわけが
なからう…

その身に
たっぷりと
思い知らせ
くれるわ…

苦しいよ
母さん…

今度は
母さんの口で
してほしいな…

くっ…
口で…

こんなに
大きいのに…
いつぶりがしら…

じゃ…
じゃあ椅子に
座りなさい…

ドキ
ドキ
ドキ

助けてあげるのが
母の役目ですもの

すごい…
間近で見たら
この大きさ…
圧倒されそうだわ…

あの人のも
こんなサイズ…
だったかしら…

その気に
なってくれて
嬉しいよ
母さん♡

えっ…？
ええ…

それにこの
むせ返るような
オスの匂い…

精液の香りが
こびりついて…

頭がクラクラ
してくるわ…

だめだって
わかってるのに

くぱっ…

もう…
止められない

久しぶりの
おちんぼ…♡

まるで
父さんに
するよう
な優しく
愛のある
キスだね…♡

私は
自分が
自分じゃ
なくなっ
ていくよ
うな不
思議な
感覚に

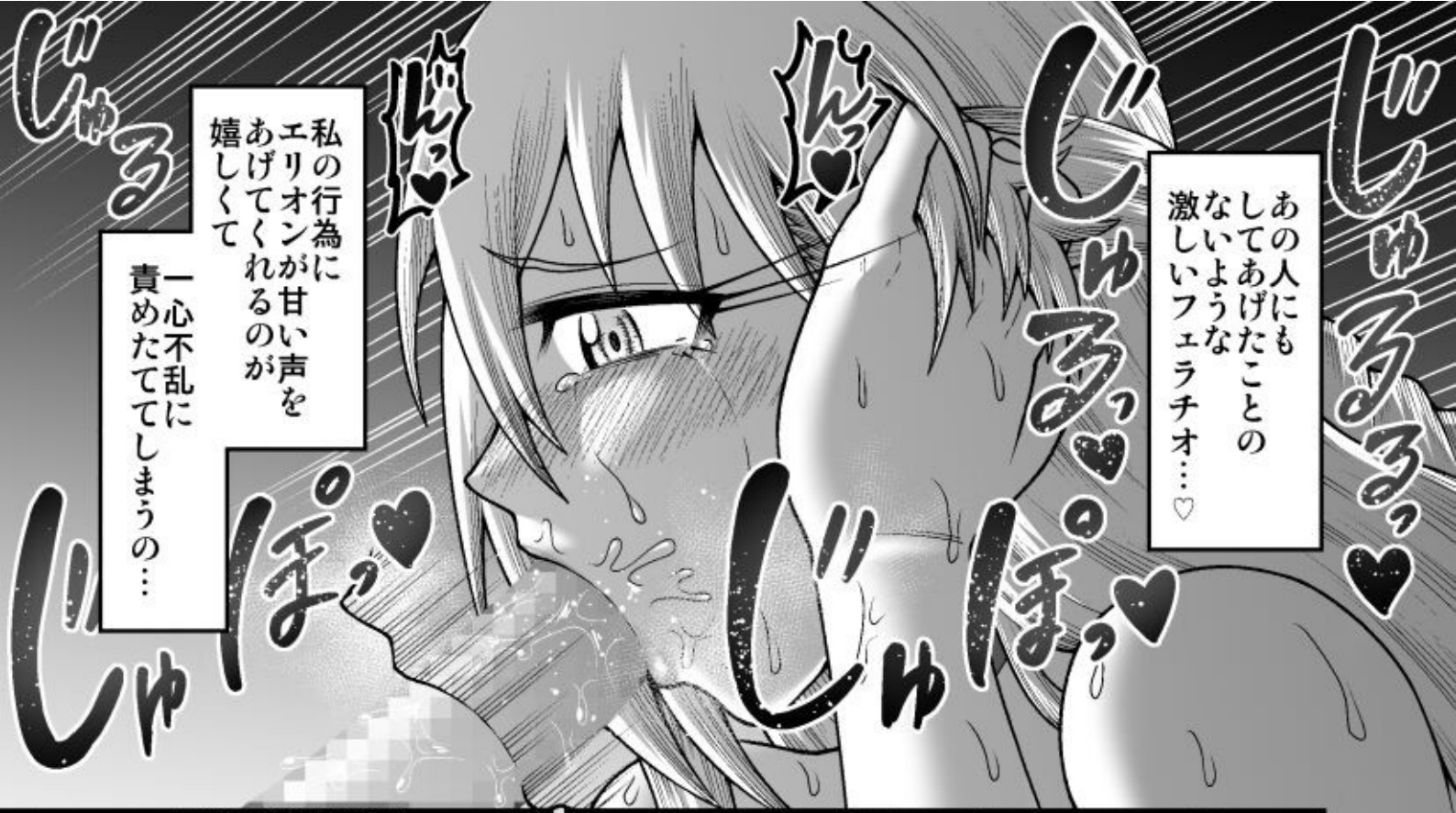
溺れて
いくの
を感
じてい
た…

頭が…
痺れる…

うっ…
唇押し
付ける
の気持
ちいい
よ…

こんなの…
我慢で
きない…

いいよ…
段々積
極的に
なっ
てきた
ね…♡



あの人にも
してあげたことの
ないような
激しいフェラチオ…♡

私の行為に
エリオンが甘い声を
あげてくれるのが
嬉しくて

一心不乱に
責めたててしまうの…



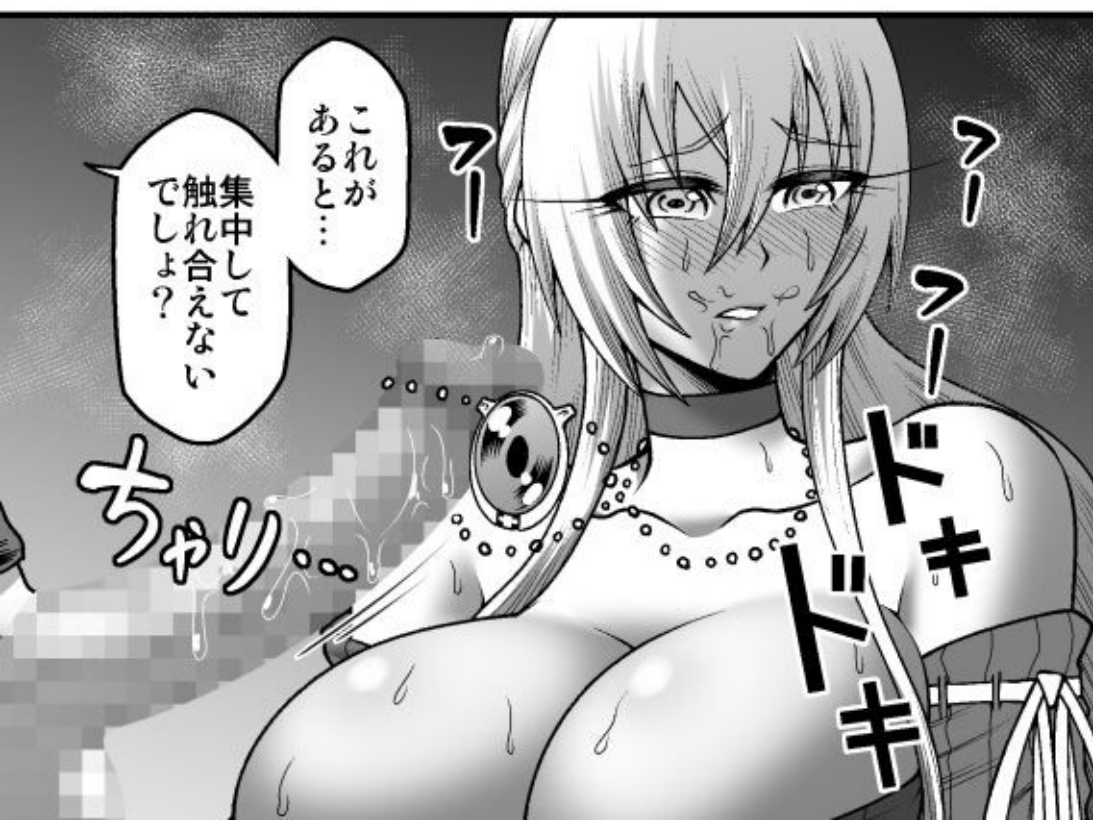
神の血筋に
産まれ
神に仕える者
としての証…

罪悪感…
感じちゃう
よね…?



ねえ
母さん…

その
首に付けてるの
邪魔じゃない?



これが
あると…

集中して
触れ合えない
でしょ?

ドキ
ドキ



取っ
ちやおつか♡



母さん

いいんだね



堕ちた



エリオン…

はぁ♡

はぁ♡

ええ

いいわ…

あなた
ごめんなさい…

ムギュー…



私と
息子は

今から…

ス…



そこにも
親も子も
ないわ…

我を忘れ
一所懸命に…



もう
戻れない…



あるのはただ
快楽に溺れた
女の姿だけ…



ぐっ…
出る…っ！

すごい量…

こんなの…
膣内に出されたら
どうなるの…？



うわあ…
精液でいっぱい…

濃い精液…♡

口の中
見せてよ…

ぬちや…



よく
できました

やだ…
私…

はあ…

これじゃ
まるで
娼婦みたい…



飲んで♡

粘り気のある
それを飲み干す

ゴクン



じゃ
部屋に行こうか…

もう
抗えない…♡

ちゅ♡♡♡



ドドドド
キーン♡

ええ...♡

脱服いで...♡

じゃ

私の体...
変じゃない?

すごく
綺麗だよ!

おっぱいもお尻も大きくて
僕好みだ...!!

ふふ...
ありがと♡

ムチッ♡



母さんの唇…
柔らかくて
美味しい…♡



ほら
楽にして♡

ちゅ♡
ちゅ♡
ちゅ♡

あっ…んっ
慌てないで…



今度はこの
大きなおっぱいで
挟んでほしいな…

ぎゅ…♡

ふふっ
いいわよ…♡



んっ

んふう…♡

こんな
感じ？

乳圧
すごっ…♡

ちんちんが
全部
隠れちゃった…

♡







ちやんと
挿れる前に
準備しなきゃね

はあ...♡

あっ...♡

そこっ...



早く
ちようだい...♡

挿れるよ...
母さんっ...!!



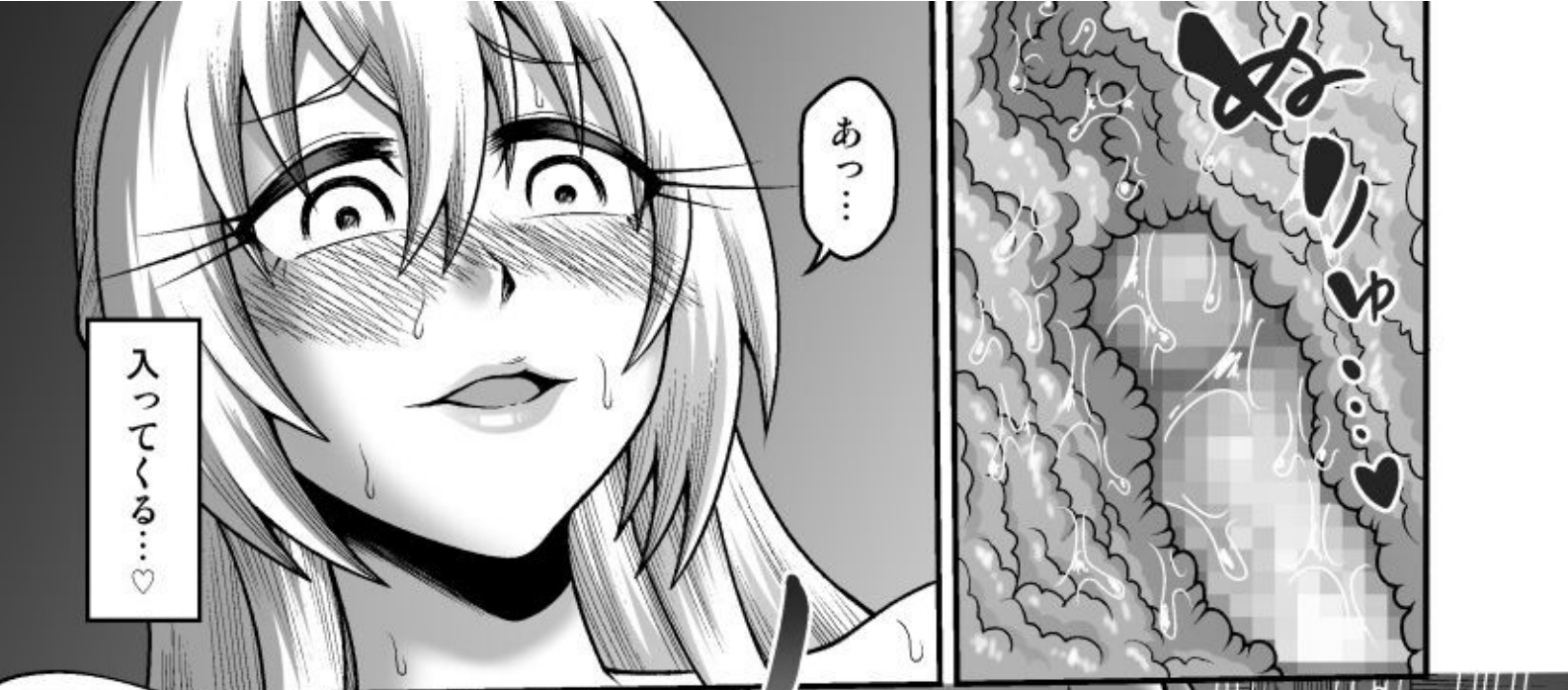
んっ...

んっ...♡

よし...
もういいかな...



んっ...♡





ようやく
手に入れたぞ…

ククク…

勇者の母親を…

愛してるよ
母さん…♡

私もよ
エリオン…



ああ…
信じられない…

あぁん♡

今私…

実の息子と
セックス
してるのね…

ん♡

あ♡

愛する息子に
優しく
抱かれて…

久しく忘れていた
快樂の味を
思い出す…

あぁん♡

私の中に
ほんの少し残った
背徳感が—

あ♡

あ♡

もっと♡

更なる快感に
火を点ける

もっと♡



じゃあ
最初の中出し

いっよう...

ええ...
来てっ...

来てっ
エリオン♡

膣内につ♡

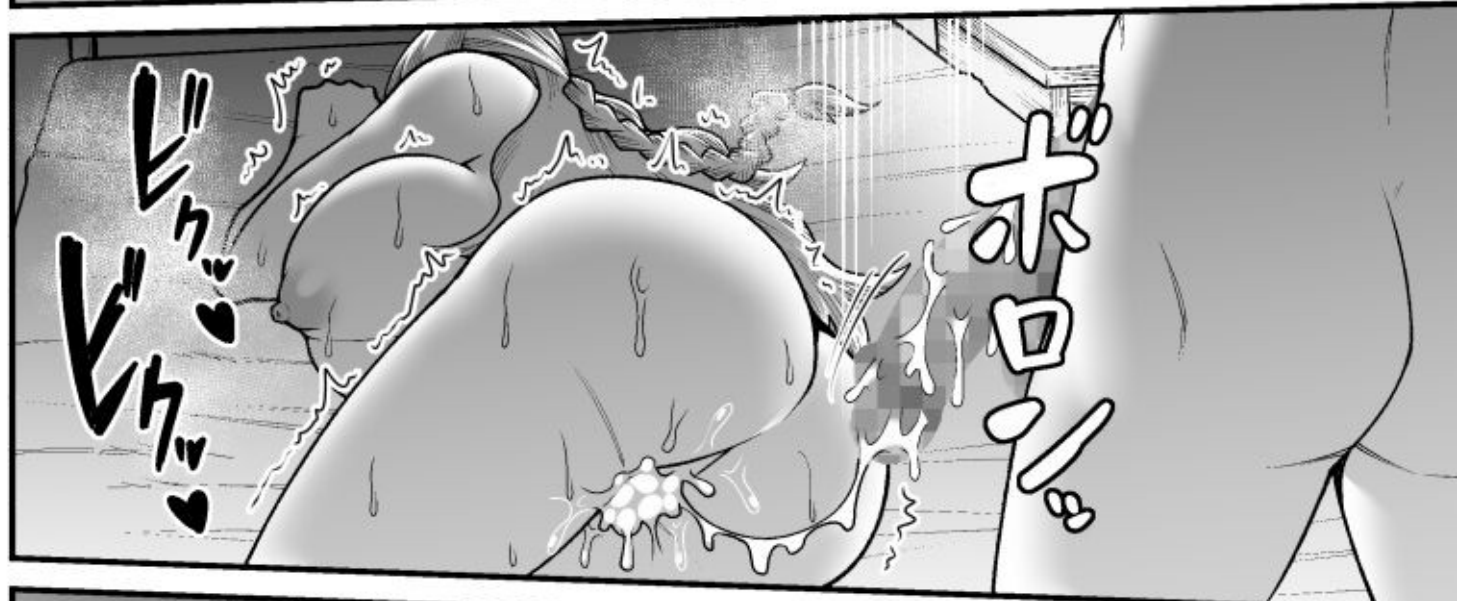
膣内にいっぱい
ちようだいっ♡





息子の精液が…

膣内にいっぱい注がれていく…っ



まだいけるよね
母さん…

僕…
もつと
続けたいよ

エリオン…♡



ええ…

もちろんよ♡



もう…ダメ…
この気持ち良さ…

クセになるう…





うん
とつても
気持ちいいよ

母さん…♡

それから…
何度も余は
母親の膣内で果てた



何度も
何度も



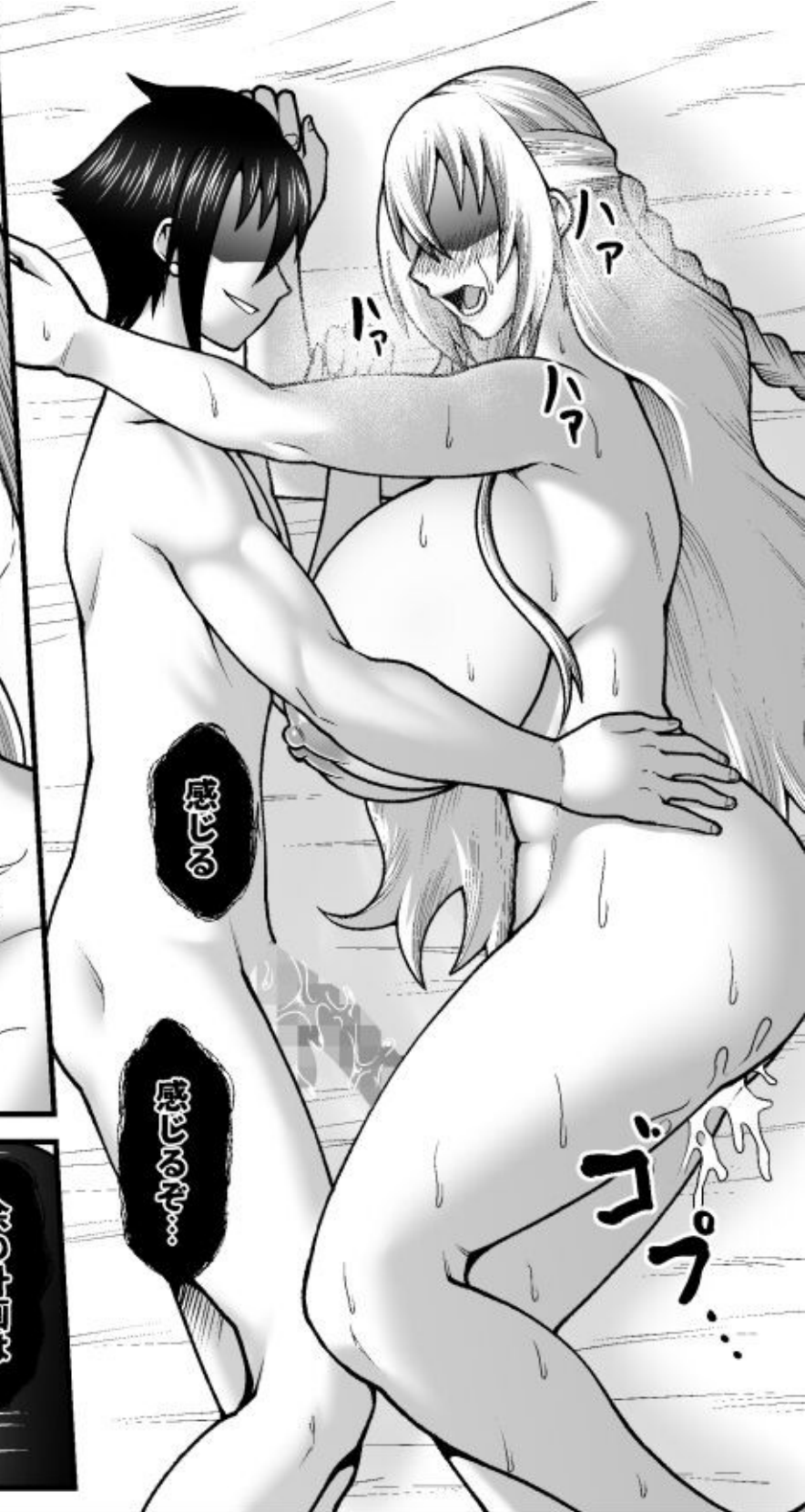
何度も
何度も



余の全生命力を
この女に
出し尽くした…



何度も
何度も
この母胎に
我が種を
植え付けるため…



数か月後

やっと
着いた〜！

魔王討伐の
後始末だつたの
押し寄せる依頼の
消化で忙しかったから

結局
予定よりだいふ
帰る日程
伸びちゃったけど…

いつもは
出迎えて
くれる
はずだけど…

母さーん？

ただいま〜

……って
あれ？

暗い…

ガチヤッ

エリオン？

あ
母さ……



おかえりなさい♡

なっ…

何…
そのお腹…!

なにして…

あなたの子よ♡

え…僕?

僕って…えっ?
僕の子って…
何?どういうこと?
状況がつかめない…

一体何が
どうなってるんだ…!?



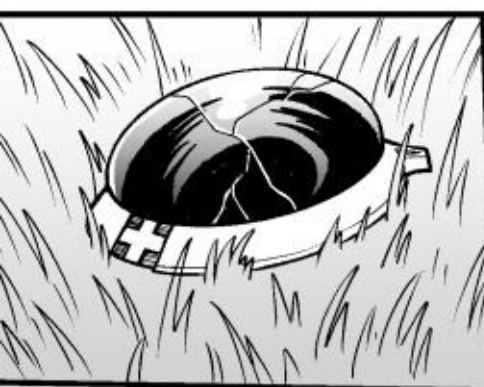
母さんね…
エリオンが突然
いなくなつて…
すごく寂しかった
のよ…？

ブル

特に妊娠すると
性欲が強くなつちやう
みたいで…とても
辛かつたんだから…♡



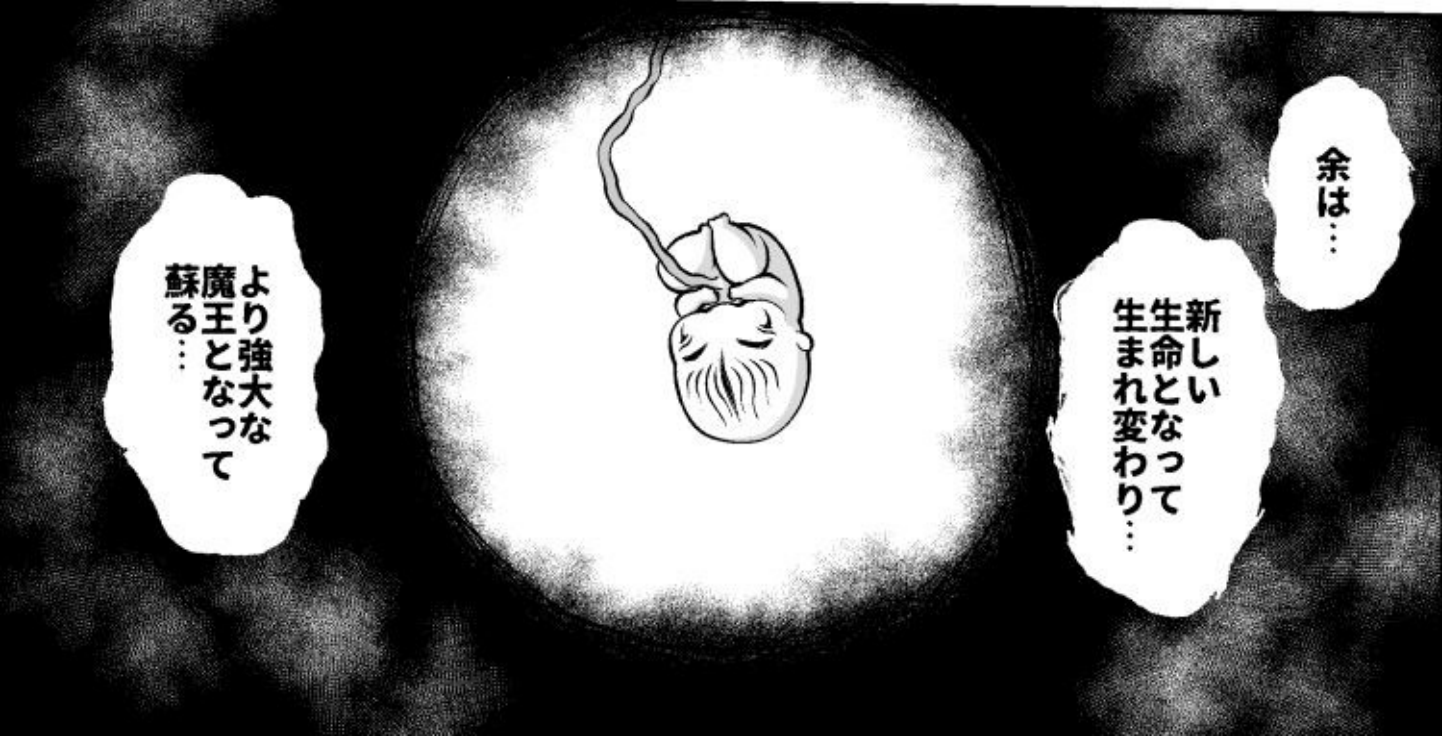
母さん…



さ…エリオン
久しぶりに
親子の触れ合い
しましょ…？

それとも
お腹の大きい
母さんはいや…？

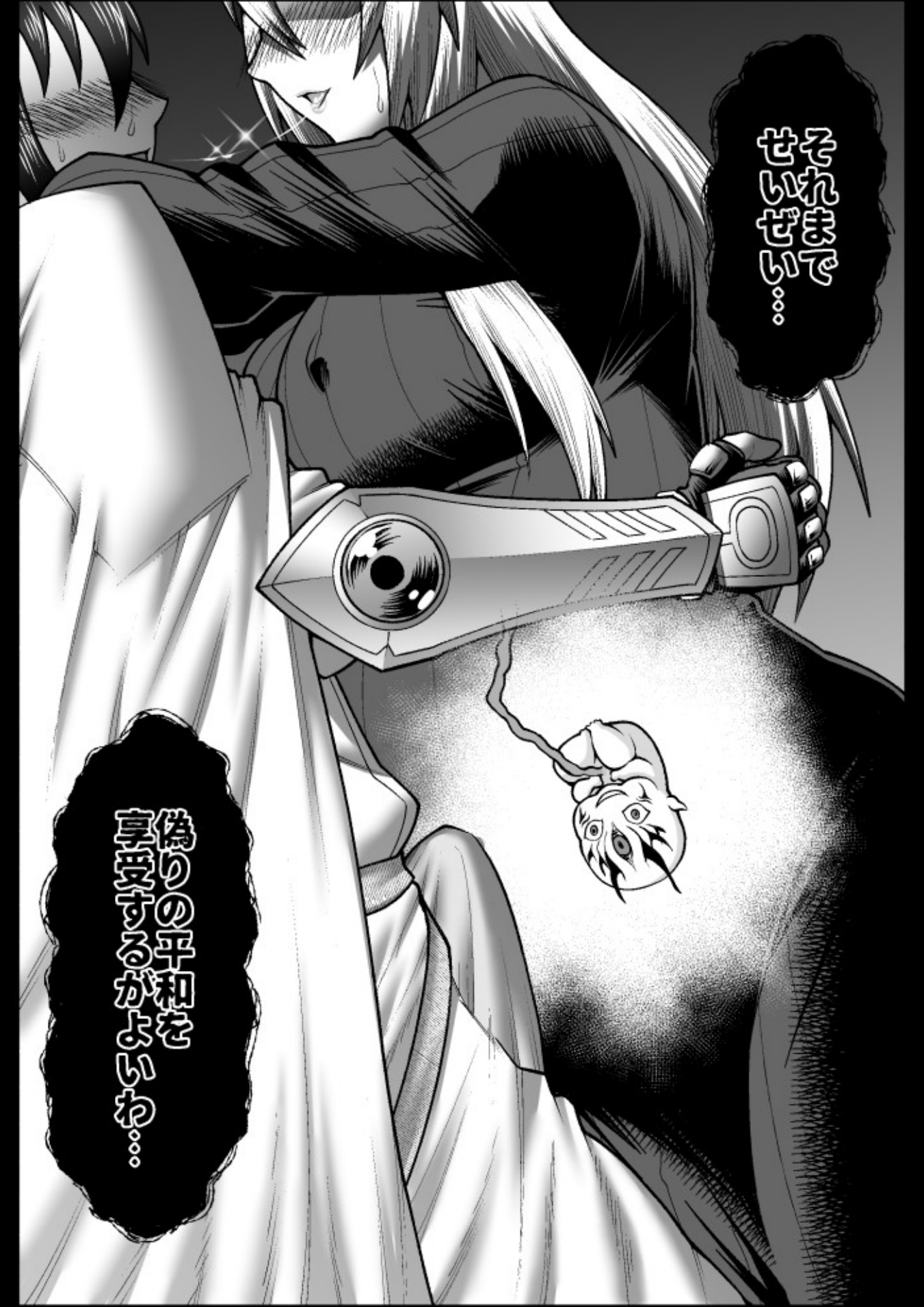
うっ…



余は…

新しい
生命となつて
生まれ変わり…

より強大な
魔王となつて
蘇る…



せいで...それまで

偽りの平和を
享受するがよいわ...



腰は大事に(挨拶)
劇団☆鬼ヶ島の作画担当、鬼山です

腰を激しく痛めてしまったり、仕事が忙しかったりで
製作期間が一年以上掛かってしまいました…！
楽しみにしてくれていた読者の方々
申し訳ございません…っ！
今回はいつのも甘々と違って
母NTRという事ですが、お楽しみいたなら幸いです！
またお会いできるのを楽しみにしております
それではまた次回作にてー！

鬼山



【Twitter ID】
@oniyama199999
【pixiv ID】
2624258

サークル名：劇団☆鬼ヶ島 メンバー：しまゆう・鬼山
Twitter/ @onigashima0202 pixiv/id=momokawa21

大変長らくお待たせいたしました。
ネーム担当のしまゆうです。

ついに完成いたしました！今作は、オリジナルママ本としては
シリーズ3作目にあたります。某RPG作品などに登場するものの、
普段はあまり注目されることのない“勇者の母”にスポットを当てて
描いてみましたが、いかがでしたでしょうか。

本来は30P弱で終わらせる予定が、ネームを描き始めたら筆がノリに
ノッてしまい、気づいたら60P越えに……。
鬼山氏には大変苦勞をかけてしまいました。

世間のあれやこれやで生活が一変し、とにかく激動の毎日でしたが、
そんな中でもなんとか完成にこぎつけることができ一安心です。
世の中の母子モノファンに届け！！



しまゆう

【Twitter ID】
@simayuu_3594



※禁止※

18歳未満の方の購入・閲覧。

ネットオークション・フリマアプリへの出品、
無断転載、複製転写、転用、WEB上へのアップロード
個人用途以外でのスキャン・デジタル化など。

本文の違法公開を見つけた際は、
検索サイトへのDMCA侵害申請、
サーバー会社への通報、
及び悪質な場合は損害賠償の請求等、
相応の対応を行います。

Twitter ID

@onigashima0202

PIXIV ID

momokawa21

E-mail

kyonproject1002@yahoo.co.jp

サークル

劇団★鬼ヶ島